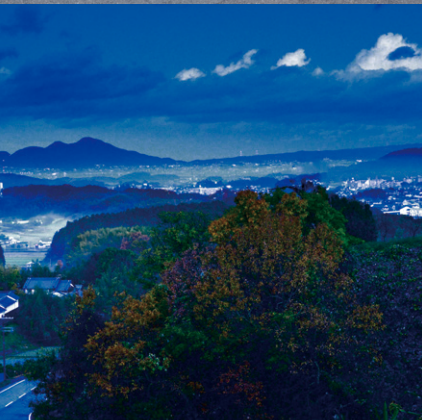


一四〇〇年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」

竹内街道・横大路(大道)



平成29年4月28日、大阪と奈良を結ぶ竹内街道・横大路と周辺にある文化財にまつわるストーリーが日本遺産に認定されました。竹内街道・横大路は、推古21年(613)に国が造った飛鳥の都と難波を結ぶ道が始まりとされています。この道が造られて以降、1400年の間に色々な物や人が通りました。その結果、神社や寺院、古墳などの墓、江戸時代の宿、道しるべ、伝承、祭礼、伝統産業などが今も生き続けています。

今回は、ゆかりの文化財の魅力を東アジアの玄関口であった難波から都があった飛鳥まで順に紹介します。



難波 海外との玄関口「難波」と大道 松原

難波は、現在の大阪城周辺のことで、難波津と呼ばれる港を中心とした朝鮮半島や中国からの人・最新の文物が行きかう国際的な土地でした。古代の歴史を記した『日本書紀』には、外交使節の建物が置かれたという記述もあります。遣隋使や中国・朝鮮半島からの使者は、海外との玄関口であるこの地を通過することから、大道は外交の道ともいわれます。

652年には、孝徳天皇によって中国の都を手本にした広大な難波宮が置かれ、一時日本の首都にもなりました。難波宮のメインストリートは難波京朱雀大路です。この道路で宮から南に向かうと聖徳太子が建てた四天王寺が右手にみえてきます。その大きさを当時の人々も目にしたことでしょう。

難波京を出た道路は難波大道と呼ばれ、平安時代の絵師である巨勢金岡を祀る堺市の金岡神社付近で竹内街道と交わります。表紙の写真は、大和川今池遺跡(松原市天美西・天美我堂)で見つかったものです。大道という名前にふさわしい両側に溝をもつ幅約20mの道路です。大道は当時の摂津国と河内国の国境でもあり、現在も大阪市住吉区と東住吉区、堺市と松原市の境にあたっています。

竹内街道で東へ向かい西除川を渡り、松原市に入ると周辺には、岡・丹南遺跡や柴籬神社などの文化財があります。



- 推定「大道」の路線
- 本文で説明した文化財 ※数字がある場合は下の写真と対応
- 表紙写真および本文に関連する文化財

竹内街道・横大路(大道)
(葛城市歴史博物館提供原図を改変)

松原 堺と奈良県南部を結ぶ竹内街道 神長社尾

岡・丹南遺跡 この地には、寺院の梵鐘や鍋・釜などの金属製品を生産した河内鋳物師と呼ばれる人々が住んでいました。街道沿いは江戸時代～昭和初期頃にかけて、中高野街道との交差点にあたることから、行き交う人々で賑わい茶屋筋と呼ばれていました。柴籬神社 竹内街道と長尾街道の間に位置し、仁徳天皇の皇子である反正天皇を祀っています。敷地内には、美しい歯並びで多遲比瑞歯別命と呼ばれた反正天皇にちなんだ歯磨き面(歯神さん)があります。

東除川を渡ると羽曳野市に入ります。周辺には、中の太子といわれる聖徳太子が蘇我馬子に命じて建てられたと伝わる野中寺があります。発掘調査で650年の年号が刻まれた瓦が出土しており、難波宮を造営した孝徳天皇の時代には建てられていたようです。重要文化財の仏像も安置されています。

石川を渡って進むと、太子町に入ります。太子町には、王陵の谷と呼ばれるように飛鳥時代の天皇陵が5つ営まれました。竹内街道・横大路とゆかりの深い、推古天皇と孝徳天皇もこの地に葬られています。同町内には、推古天皇によって建てられた上の太子と呼ばれる野中寺があり、境内には聖徳太子のお墓があります。

峠道を登り竹内峠を越えれば、奈良県に入ります。長尾神社が竹内街道の終点です。



1 難波宮跡(大阪市)



2 四天王寺(大阪市)



3 難波大道(松原市)



4 丹南遺跡(松原市)



4 茶屋筋沿いに建つ料理旅館跡(松原市)
(『松原警察署史』より転載)



5 柴籬神社(松原市)



10 長尾神社(葛城市)



9 竹内峠(太子町・葛城市)



8 叡福寺(太子町)



7 推古天皇陵(太子町)



6 野中寺(羽曳野市)



5 歯磨き面(松原市)

長尾神社 華やかな古都 飛鳥

長尾神社から飛鳥の都へは、横大路、南北道路の下つ道、山田道を通して向かいます。

613年に大道が作られたとき、飛鳥には推古天皇の小墾田宮が営まれていました。推古天皇即位以降の約120年間、飛鳥とその周辺に都が営まれ、中国・朝鮮半島からの文物も積極的に取り入れられました。694年に持統天皇が中国の都を手本にした藤原京を置きましたが、710年に平城京へ遷都することとなり、都は飛鳥の地を離れました。

古都として有名な飛鳥ですが、日本最古の寺である飛鳥寺や聖徳太子の誕生地に営まれた橋寺など、古代の寺院も数多く建てられました。



7世紀後半頃に甘櫨丘から眺めた飛鳥の風景 (画 早川和子)



聖徳太子が生まれたとされる橋寺付近の風景

信仰・経済の道「竹内街道」

飛鳥時代は、主に外交の道として使われましたが、奈良時代以降には聖徳太子を信仰する人々が、太子ゆかりの叡福寺(上の太子)、野中寺(中の太子)などを訪れる際、この街道を利用しました。

戦国時代には、鉄砲の製作や貿易で栄えた堺と大和国を結ぶ経済の道として重要性が高まりました。

また、江戸時代～明治時代頃には、伊勢神宮などへ詣る信仰の道として多数の人々が行き交いました。

「竹内街道」の由来

現在、呼ばれている竹内街道という名前はいつからのことでしょうか。江戸時代の絵図や街道沿いに残る道標には、「大和海道」、「大和路」、「大坂さかい道」とあります。一方、明治時代の地図には、「竹ノ内街道」と記すことなどから、竹内街道の名称が使われるようになったのは、明治時代以降のようです。



明治14年 古市以下七郡役所部内略図(個人蔵)

協力者・協力機関一覧(五十音順、敬称略)

市本芳三 神庭滋 西田敬之 早川和子 吉村亮 葛城市歴史博物館
公益財団法人大阪府文化財センター 竹内街道・横大路(大道)活性化実行委員会

ホームページ(ホーム画面右端の「分野で探す」より「文化・スポーツ」の項目にある「文化財」をクリック)
<http://www.city.matsubara.osaka.jp>

文化財の展示
ふるさとびあプラザ1F・郷土資料館(一般財団法人松原市文化情報振興事業団)
〒580-0016 大阪府松原市上田7丁目11番19号 電話 072-336-6800

埋蔵文化財に関する手続き／文化財に関する相談／図書の販売など
松原市役所5F・教育委員会事務局 文化財課
〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号
【電話】072-334-1550(代) / 【FAX】072-332-7720(教育委員会事務局)

表紙掲載写真の撮影場所

1	2	3	1.四天王寺(大阪市)
4	5	6	2.明日香村豊浦
7	8	9	3.竹内街道(太子町)
10			4.竹内街道(堺市)
			5.竹内街道(松原市)
			6.藤原京跡(橿原市)
			7.明日香村立部
			8.橿原市今井町
			9.当麻寺(葛城市)
			10.難波大道(松原市)